


商学部

商学科 公共経営学科

商学部は、ビジネスのスペシャリストとして、あるいは自治体、NPO/NGOなどのマネジメントを通じて、社会に貢献したいと望む学生を求めています。商学部で得る知識を生かして主体的に問題を発見し、それを解決していこうという意欲のある学生を歓迎します。

 <http://www.bus.osaka-cu.ac.jp/>
Tel: 06-6605-2201



「考える実学」を基礎に
時代を見抜く力を養う

「考える実学」を学風として、 経営学、商学、会計学でリード

1880年開設の大阪商業講習所を源流とする商学部は137年の歴史と伝統を誇る商学教育・研究の草分けです。戦前は現在の一橋大学、神戸大学とともに「三商大」の一角を担い、わが国有数の学部として今日まで常に日本の経営学・商学・会計学の分野をリードしてきました。

商学部では、経済を構成する最小単位であり、社会における財・サービス生産の担い手である「企業」の活動を通して、「生きた経済」を学びます。常に見据えているのは現実ですが、「理論と実践の統合」を学風とする本学部では、理論や歴史も大切にしています。時代の「雰囲気」に左右されることなく企業活動や日本経済の在り方を展

望するためには、企業や経済についての深い理解と、時代を見抜く分析力が欠かせません。高度な知識と理解力、課題発見と解決能力、そして冷静な洞察力。これら現代社会が求める能力を身に付けた人材の育成を、商学部は目指しています。



体系的カリキュラム・徹底した 小集団教育・キャリアデザイン

商学部では生きた企業活動を幅広い視野から学ぶために、基礎から専門へ体系的に学べるカリキュラムを編成しています。本学部では、2年次後期から商学科と公共経営学科のいずれかに属し、それぞれの学科の専門科目をベースに、より専門的な学習ができるよう工夫しています。

商学部での教育の最大の特徴は、十数人単位で行うゼミナール制度を採用していることです。1年次のプロゼミナールに始まり、2年次のプロジェクト・ゼミナール、3・4年次の専門ゼミナールと卒業するまで一貫した小集団教育を行っています。プロゼミナールでは、研究の基礎的方法を学

び、プロジェクト・ゼミナールでは、企業・自治体等とコラボレートし、実際に企業、社会が抱える課題について解決策を提案する取り組みを行っています。そして、専門ゼミナールでは、より深くテーマを掘り下げ、専門研究を行います。教員との徹底的な討論を通じて、自分の頭で物事を考え、明確に表現できる能力を養うために、きめ細かな教育を行っています。

また、商学部では実業界からのゲストスピーカーを招いて行うキャリアデザイン論を軸に、学生のキャリア教育にも力を入れています。

Student Voice



実践的な学びで想像以上に成長できた
生井 達也さん（商学科 3年生） 奈良県立郡山高等学校 卒業

高校の時に参加したオープンキャンパスで、商学部では社会とかわりながら実践的に学べることを知り、受験を決意しました。実践的な授業で印象深いのは2年生で受けた「プロジェクト・ゼミナール」です。前期ではオープンキャンパスの運営を経験しました。私は当日行うプレゼンを担当するグループのリーダーを務め、他のグループとの調整に苦労したこともあり、組織運営の難しさや面白さを実感できました。また、後期ではインドネシアの企業について調べ、課題解決策を現地で発表しました。この経験によって海外にも視野が広がったと思います。そのほか、「経営ロジスティクス論」という講義形式の授業では、企業経営における物流の重要性を理解できたので印象に残っています。

現在はビジネスにおいてカリスマと呼ばれる人や起業家の生き方について興味があり、「専門ゼミナール」などで学びを深めていきたいと考えています。

Professor Voice



**体得した知識や
持ち前の行動力を武器に
社会で活躍してほしい**

鈴木 洋太郎先生（産業立地論）

商学部のカリキュラムは、1・2年次から現場を経験し、その後に必要に応じて経営・商学・会計分野のさまざまな知識を深く学び、総合的な実践力を培うのが特徴です。商学部は生井さんをはじめ、行動的な学生が多いので、卒業後も実践力を発揮し、社会の第一線で活躍してくれると信じています。

カリキュラム



※1:「学部・大学院5年教育プログラム」(学部と大学院前期博士課程を5年で修了できる制度)には3年終了時に応募できます。
※2:卒業論文は選択科目です。

概要・特色
多様な
学び
商学部
経済学部
法学部
文学部
理学部
工学部
医学部
看護学部
生活
科学部
大学院
特設教育
都市経営
研究科
テーマ
キャンパス
ライフ
就職情報
入試関連
情報
キャンパス
アクセス
マップ

2つの学科による 専門的かつ体系的な教育システム

新学科の設置

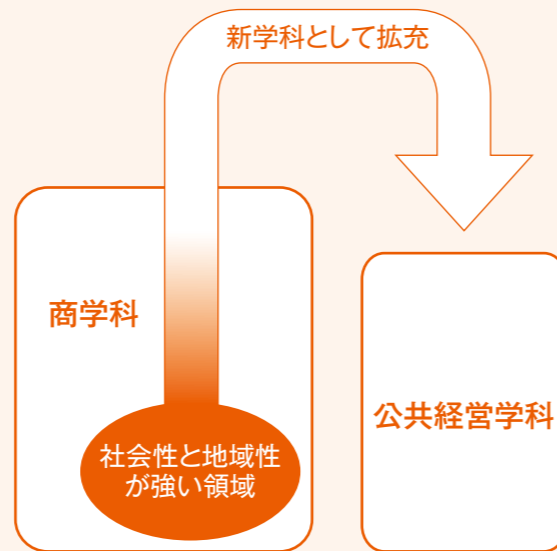
商学部は大阪市立大学発足時(1949年)以降、明治以来の大阪商業講習所や大阪商科大学の伝統を引継ぎながら、経済界や地域で活躍する多くの有為な人材を輩出してきました。この間、商学部商学科という1学科での教育体制でした。近年の大きな経済社会の変化のなかで、地域や公共分野で活躍する人材の育成が求められています。こうした社会的要請に応えるべく、商学部では2018年4月から商学科に加え、新たに「公共経営学科」を設置し、非営利組織、公的機関、地域企業、CSR(企業の社会的責任)等について重点的に学ぶ機会を拡大させることになりました。

公共経営学科とは

公共経営学科はマネジメントやビジネスを扱う点は商学科と同じですが、「社会性」と「地域性」をキーワードとして学習を進める点に特色があります。商学部の前身大阪商科大学(旧制)の時代には「市政科」という独自の珍しい学科があり、その知的伝統が大阪市立大学発足後も引き継がれてきました。公共経営学科の設立は、この商学部独自の歴史的資産を時代に即した形でリニューアルさせる試みでもあります。

2つの学科の専門科目を 並行して学べる連携体制

2学科体制であるとはいえ、それぞれの学科がまったく別々の教育を行うわけではありません。1年生から2年生前期の間は、学科には属さずに経営学、経済学、会計学などの基礎的な科目を学びます。2年生後期からどちらかの学科に所属し、専門的な勉強を行うこととなりますが、いずれの学科の専門科目も並行して学べる体制をつくっています。2つの学科は分離しているのではなく、互いに補い合い、連携しながら商学部教育体系のなかで運営されます。したがって、商学部でどちらの学科に属するのかは、勉強の軸足をどの分野に置かかということであり、いずれの学科に所属しようとも商学部学生として経営・商学・会計を体系的に学ぶことには変わりはありません。



	学科共通 専門科目	経営	商学	会計	相互の 学科科目も履修可能
商学科	<ul style="list-style-type: none"> 会計基礎論演習 中級簿記 経営分析論 財務諸表論 原価計算論 情報処理演習 基礎統計学 等 	<ul style="list-style-type: none"> 経営管理論 経営組織論 経営財務論 イノベーション・マネジメント 国際経営論 人的資源管理論 事業戦略論 等 	<ul style="list-style-type: none"> 環境論 工業論 金融機関論 統計方法論 マーケティング経済論 等 	<ul style="list-style-type: none"> 財務会計論 管理会計論 企業評価論 国際会計論 会計監査論 会計情報システム論 管理会計システム論 等 	
公共経営学科	<ul style="list-style-type: none"> 会計基礎論演習 中級簿記 経営分析論 財務諸表論 原価計算論 情報処理演習 基礎統計学 等 	<ul style="list-style-type: none"> 公共経営論 ビジネス・モデル論 ソーシャルビジネス論 地域経営論 ベンチャー・ビジネス論 政策形成論 等 	<ul style="list-style-type: none"> 地域金融論 地域デザイン論 地域マーケティング論 地域再生論 産業立地論 中小企業論 等 	<ul style="list-style-type: none"> 公会計論 社会関連会計論 自治体財政論 等 	

少人数のゼミナール教育を重視

商学部での教育の最大の特徴は、少人数でのゼミナール制度を採用していることです。教員との親密で徹底的な討論を通じて自分の頭で物事を考え、それを明確に表現できる能力を養うために、きめ細かな教育が行われています。

- プロゼミナール
- プロジェクト・ゼミナール
- テーマ・ゼミナール
- 専門ゼミナール3
- 専門ゼミナール4
- 卒業論文



ナマの財務データを用いた実践的研究

石川博行先生 —石川ゼミ—

財務諸表は企業情報の宝庫です。石川ゼミでは、企業の収益力やリスクの程度を評価するための手法、ならびに最新の企業評価モデルとその実践的活用法を、企業が公表するナマの財務データを用いて、グループ・ディスカッションします。

講義紹介

高田輝子先生 —データ分析論—

コンピュータの能力の高まりと利用可能な統計の増大を背景に、データを基に判断を下す能力の重要性が多岐分野で高まっています。本講義では、さまざまな統計手法によるデータ分析の出力結果を適切に理解・判断し、実際の意思決定に役立てる方法を学びます。



宮川壽夫先生 —証券市場論—

企業はどこからお金を集めて、どの事業に投資し、どうやって価値を創るのか? 株主と経営者というキャラの立った主役に、従業員・債権者・取引先などシブめの個性俳優が加わって企業を舞台に大騒動。そんなドタバタ劇にゲームや議論を通して科学的に接近します。経営者になる人、必須の講義です。



卒業生からあなたへ

寺井 まりなさん
株式会社トランスコンテナ

商学部 商学科
2013年3月卒業



“一生モノ”を身に付けられる市大商学部での学びに、社会人となった今でも日々支えられています。現在、日本郵船グループの一員としてコンテナ輸出入船積み業務に携わり、お客様からお預かりした多種多様な貨物を世界各地へと運んでいます。

市大では、教授陣・学友とのかけがえのない出会い、そしてさまざまな交流の機会に恵まれ、成長できる環境に身を置けました。具体的には、交換留学や三商大討論会といった経験を通じて、グローバルな感覚やチームで考え抜く力・双方向の視点を養うことができ、今日に繋がっています。

ぜひ皆さんも市大へ乗船し、豊かな人生を楽しんでみませんか?

商学部のあれこれ Q & A

Q 商学部ではどのようなことを学べますか?

A 商学部では、個別企業の経営や会計の在り方、企業を取りまく各産業(製造業、金融、流通、保険、交通、貿易など)や地域(立地、都市など)の特性について学びます。さらにより広い経済社会との相互関係に触れることで、企業、産業、経済の生きた働きを総合的に広い視野から理解できます。この点で、経済学部や経営学部よりも企業や経済についての幅広い勉強が可能です。

Q キャリア教育にも力を入れているということですが?

A 高校のこれまでの勉強では既存の「知識」を学ぶことに終始していませんでしたか? もちろん、既存の知識体系を学ぶことは重要です。しかし、激動する世界情勢の下、今、社会で最も求められているのは「自ら課題を発見し、解決する能力」です。商学部では、キャリアデザイン論、プロジェクト・ゼミナールという新しいプログラムを通じてこうした能力の形成に力を入れています。

Q 卒業後はどのような進路がありますか?

A 商学部の卒業生は、公認会計士や経営コンサルタントといったスペシャリストのほか、製造業、情報、銀行、証券、保険、流通、商社、新聞・出版・広告、国家・地方公務員、公団など、実社会の多方面で活躍しています。本学経営学研究科も含め、大学院に進学する人もいます。また商学部には独自の同窓会として「校友会」があり、在学生の就職活動のサポートをしています。